



プラットフォームの管理

Cisco MobilityManager サーバプラットフォームの管理用に、次のツールが用意されています。

- 全面的なプラットフォーム管理機能を提供する Cisco IPT Platform Administration Web ページ
- 部分的なプラットフォーム管理機能を提供する Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス)

ブラウザ ベースのインターフェイスおよびコマンドライン インターフェイスの使用方法については、次のトピックを参照してください。

- [Cisco IPT Platform Administration Web ページの使用方法 \(P.6-2\)](#)
- [Cisco IPT Platform Administration コマンドライン インターフェイス \(P.6-18\)](#)

Cisco IPT Platform Administration Web ページの使用法

Cisco IPT Platform Administration Web ページでは、Cisco MobilityManager サーバプラットフォームを設定および管理できます。次の機能を実行できます。

- プラットフォーム コンポーネントのステータスを確認する : Status ウィンドウに、読み取り専用の次のハードウェア情報およびプラットフォーム情報が表示されます。
 - プラットフォーム ステータス : Cisco MobilityManager サーバのインストール中に入力した情報が表示されます。これには、ホスト名、イーサネット ポートのステータス、IP アドレス、メモリ使用状況、および CPU 使用率が含まれます。
 - ハードウェア ステータス : ハードウェア プラットフォームの情報が表示されます。
- ネットワークの設定を行う : IP アドレスと、アプリケーションをインストールしたときに入力した Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) 情報を修正できます。また、Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) サーバおよびクライアントを追加すること、NTP 設定を同期することもできます。
- 他のネットワーク デバイスとの接続性を検証する : PING ユーティリティを使用して、ネットワークの接続性を検証できます。
- ソフトウェアのアップグレードを実行する : Cisco MobilityManager サーバソフトウェアの現在のバージョンを確認し、ローカル ソース (CD-ROM または DVD) またはリモート ソース (ネットワーク上のサーバ) からソフトウェアをアップグレードできます。
- システムのリブート : システムをリブートして現在のソフトウェア イメージの使用を継続することも、システムをリブートして別のソフトウェア イメージの使用を開始することもできます。

関連項目

- [ログイン \(P.6-3\)](#)
- [Show Status \(P.6-3\)](#)
- [Settings \(P.6-6\)](#)
- [Software Upgrade の各種ウィンドウ \(P.6-11\)](#)
- [システムの電源オフまたはリブート \(P.6-16\)](#)

ログイン

Cisco IPT Platform Administration にアクセスしてログインするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウで、**Show Navigation** をクリックします。
 - ステップ 2** 左側のパネルで、**Platform Administration** をクリックします。
 - ステップ 3** Cisco IPT Platform Administration Logon ウィンドウで、ユーザ名とパスワードを入力します。



(注) ユーザ名とパスワードは、インストール中に設定されています。

- ステップ 4** **Submit** をクリックします。
-

Show Status

Show Status メニューの次のオプションを使用して、プラットフォーム ステータスおよびハードウェア ステータスの情報を表示します。

- **Platform Status**: プラットフォームのインストール中に入力した情報が表示されます。これには、ホスト名、イーサネット ポートのステータス、IP アドレス、メモリ使用状況、および CPU 使用率が含まれます。
- **Hardware Status**: プラットフォームのモデル、CPU タイプ、メモリ、オブジェクト ID、および OS バージョンが表示されます。

プラットフォーム ステータス

Platform Status ウィンドウを開くには、**Show Status > Platform Status** を選択します。表 6-1 に、このウィンドウに表示されるフィールドの説明を示します。

表 6-1 Platform Status のフィールド

フィールド	説明
System	
Host Name	Cisco Platform Administration がインストールされた MCS 78xx ホストの名前が表示されます。
Date/Time	プラットフォームのインストール中に指定した大陸と地域に基づいて、日付と時刻が表示されます。
Locale	プラットフォームのインストール中に選択した言語が表示されます。
Time Zone	インストール中に選択した時間帯が表示されます。
Network	
Status	イーサネット ポート 0 および 1 について、ポートが Up であるか Down であるかが示されます。
DHCP	イーサネット ポート 0 および 1 について、DHCP が有効であるかどうかを示されます。
IP Address	イーサネット ポート 0 および 1 の IP アドレスが表示されます。
IP Mask	イーサネット ポート 0 および 1 のサブネット マスク アドレスが表示されます。
Primary DNS	プライマリのドメイン ネーム サーバの IP アドレスが表示されます。
Domain	プラットフォーム ドメインの名前が表示されます。
Secondary DNS	セカンダリのドメイン ネーム サーバの IP アドレスが表示されます。
Gateway	イーサネット ポート 0 上のネットワーク ゲートウェイの IP アドレスが表示されます。

表 6-1 Platform Status のフィールド (続き)

フィールド	説明
Resources	
CPU	アイドル状態の CPU キャパシティの割合、システムプロセスを実行している割合、およびユーザプロセスを実行している割合が表示されます。
Memory	総メモリ、空きメモリ、および使用メモリのサイズが KB 単位で表示されます。
Disk/active	アクティブ ディスク上の総ディスク スペース、空きディスク スペース、および使用ディスク スペースのサイズが表示されます。
Disk/inactive	非アクティブ ディスク上の総ディスク スペース、空きディスク スペース、および使用ディスク スペースのサイズが表示されます。
Disk/logging	ディスク ロギングに使用される総ディスク スペース、空きディスク スペース、および使用ディスク スペースのサイズが表示されます。

ハードウェア ステータス

Hardware Status ウィンドウを開くには、**Show Status > Hardware Status** を選択します。表 6-2 に、このウィンドウに表示されるフィールドの説明を示します。

表 6-2 Hardware Status のフィールド

フィールド	説明
Hardware Platform	プラットフォーム サーバのモデル識別情報が表示されます。
Number of Processors	プラットフォーム サーバのプロセッサ数が表示されます。
CPU Type	プラットフォーム サーバのプロセッサ タイプが表示されます。
Memory	総メモリ量が MB 単位で表示されます。

表 6-2 Hardware Status のフィールド (続き)

フィールド	説明
Object ID	ソフトウェア オブジェクト ID が表示されます。
OS Version	プラットフォーム上で実行されているソフトウェア オペレーティング システムのバージョンが表示されます。

Settings

次の表示と変更を行うには、Settings ウィンドウを使用します。

- IP の設定
- ホストの設定
- NTP の設定
- PING ユーティリティ

IP の設定

IP Settings ウィンドウには、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) がイーサネット接続 0 および 1 でアクティブであるかどうかが表示され、関連するイーサネット IP アドレスがリストされます。また、ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスも表示されます。

IP の設定を修正するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Settings > IP Settings を選択します。
 - ステップ 2** 表 6-3 の説明に従って、適切なフィールドに新しい値を入力します。
 - ステップ 3** Execute をクリックします。
-

表 6-3 IP Settings のフィールド

フィールド	説明
Ethernet 0 and Ethernet 1	
DHCP	DHCP がアクティブであるかどうかを示されます。
IP Address	DHCP サーバの IP アドレスが示されます。
IP Mask	DHCP サーバの IP サブネット マスク アドレスが示されます。
Network	
Gateway	ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスが示されます。

ホストの設定

Host Settings ウィンドウには、プラットフォーム ホストの名前と IP アドレスが表示されます。プラットフォームのインストール手順の中で値を設定する必要があります。

新しいホストを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Settings > Host Settings を選択します。
- ステップ 2** Add をクリックします。
- ステップ 3** 新しいホスト名と IP アドレスを入力します。
- ステップ 4** Save をクリックします。

NTP の設定

NTP Settings ウィンドウには、NTP の設定が表示されます。このウィンドウでは、プラットフォームを NTP サーバまたは NTP クライアントのいずれかとして設定できます。また、このウィンドウでは、NTP サービスの開始および停止を行うこともできます。

NTP の設定を行うには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Settings > NTP Settings を選択します。
 - ステップ 2** 表 6-4 の説明に従って、情報を入力します。
 - ステップ 3** Save をクリックします。
-

表 6-4 NTP Settings のフィールド

フィールド	説明
NTP Status	
Status	NTP サービスがアクティブであるかどうかを示されます。NTP サービスのステータスを制御するには、 Start または Stop をクリックします。

表 6-4 NTP Settings のフィールド (続き)

フィールド	説明
NTP Server Configuration (プラットフォームがサーバの場合)	
Add/Delete	<p>NTP サーバを追加または削除します。</p> <p>NTP サーバを追加する手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Add をクリックします。 2. サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。 3. Save をクリックします。確認メッセージが表示されます。 4. NTP Settings をクリックして NTP Settings ウィンドウに戻ります。 <p>NTP サーバを削除する手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サーバ エントリの左側のチェックボックスをオンにします。 2. Delete をクリックします。 3. Save をクリックします。確認メッセージが表示されます。 4. NTP Settings をクリックして NTP Settings ウィンドウに戻ります。
Address	NTP サーバの IP アドレスが表示されます。
Hostname	NTP サーバの名前が表示されます。
Status	NTP サーバがアクティブであるかどうかが表示されます。

表 6-4 NTP Settings のフィールド (続き)

フィールド	説明
NTP Client Configuration (プラットフォームがクライアントの場合)	
Add/Delete	<p>NTP クライアントを追加または削除します。</p> <p>NTP クライアントを追加する手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Add をクリックします。 2. IP アドレスとマスクを入力するか、ホスト名を入力します。 3. Save をクリックします。確認メッセージが表示されます。 4. NTP Settings をクリックして NTP Settings ウィンドウに戻ります。 <p>NTP クライアントを削除する手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エントリの左側のチェックボックスをオンにします。 2. Delete をクリックします。 3. Save をクリックします。確認メッセージが表示されます。 4. NTP Settings をクリックして NTP Settings ウィンドウに戻ります。
Address	NTP クライアントの IP アドレスが表示されます。
Hostname	NTP クライアントの名前が表示されます。
Mask	NTP クライアントのサブネット マスクが表示されます。

PING ユーティリティ

Ping Utility ウィンドウでは、PING メッセージをネットワーク内の別のサーバに送信できます。

PING ユーティリティを使用するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** **Utilities > Ping** を選択します。
 - ステップ 2** 送信先の IP アドレスと送信する PING パケットの数を入力します。
 - ステップ 3** **Execute** をクリックします。
 - ステップ 4** Ping Utility ウィンドウに、PING 統計情報が表示されます。**Cancel** または **Done** をクリックして、PING 操作を終了します。
-

Software Upgrade の各種ウィンドウ

次に示す Software Upgrade のウィンドウでは、Cisco IPT プラットフォーム ソフトウェアをローカル ソースまたはリモート ソースからアップグレードしたり、現在のソフトウェア バージョンを表示したりできます。また、個々のソフトウェア コンポーネントを確認することもできます。

- From Local Source
- From Remote Source
- Show Current Version
- Check Component Info

**注意**

プラットフォーム ソフトウェアをアップグレードする前に、それ以外のすべてのソフトウェアのアップグレードとインストールが完了していることを確認してください。最新の Install/Upgrade ログで、他の Install/Upgrade プロセスが存在しないことを確認してください。

From Local Source

CD または DVD からサーバソフトウェアをアップグレードするには、From Local Source ウィンドウを使用します。

始める前に

- アップグレードディスクを作成または取得します。
- システム データをバックアップします。P.3-13 の「データベースのバックアップと復元」を参照してください。

アップグレードを実行するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 新しい CD または DVD を、アップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。

ステップ 2 **Software Upgrade > From Local Source** を選択します。

ステップ 3 表 6-5 の説明に従って、必要なアップグレード情報を入力します。

ステップ 4 **Submit** をクリックします。

アップグレード ステータスを示すメッセージが表示されます。このとき、以前にダウンロードしたソフトウェア イメージのリストも表示されます。

ステップ 5 アップグレードが完了する前に操作を終了する場合は、**Cancel** をクリックします。

表 6-5 Local Source Upgrade のフィールド

フィールド	説明
Upgrade Software Directory on CD/DVD	ソフトウェア アップグレードがある (CD または DVD 上の) ディレクトリを入力します。
Platform	Linux (デフォルト) を選択します。

From Remote Source

リモート ネットワーク ロケーションからソフトウェアをアップグレードするには、From Remote Source ウィンドウを使用します。

始める前に

システム データをバックアップします。P.3-13 の「データベースのバックアップと復元」を参照してください。

リモート ロケーションからアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Software Upgrade > From Remote Source を選択します。

ステップ 2 必要なアップグレード情報を入力します。

表 6-6 に、アップグレード情報の説明を示します。

ステップ 3 Submit をクリックします。

ステップ 4 ダウンロードするソフトウェア バージョンを選択します。

ステップ 5 ソフトウェアをアップグレードすることを確定します。

ステップ 6 システムをリブートします。

アップグレード ステータスを示すメッセージが表示されます。このとき、以前にダウンロードしたソフトウェア イメージのリストも表示されます。

表 6-6 Remote Source Upgrade のフィールド

フィールド	説明
Remote Software Server	ソフトウェアのダウンロード元とするリモートサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
Remote User	リモートサーバ上に設定されているユーザの名前を入力します。
Remote User Password	このユーザに対してリモートサーバ上で設定されているパスワードを入力します。
Upgrade Software Directory	ソフトウェアのダウンロード元とするディレクトリの名前を入力します。
Download Protocol	sftp (デフォルト) または ftp を選択します。
Platform	Linux を選択します。

Show Current Version

Show Current Version ウィンドウでは、Cisco IPT Platform 上で実行されているソフトウェアの現在のバージョンを表示できます。

現在のソフトウェアバージョンを表示するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Software Upgrade > Show Current Version を選択します。
 - ステップ 2** Retrieve をクリックして、バージョン情報を取得します。
 - ステップ 3** 情報の確認が終了したら、OK をクリックします。
-

Check Component Info

Check Component Info ウィンドウでは、次のカテゴリの情報を確認できます。

- インストールされたソフトウェア パッケージ
- インストール プロセス
- ポストインストール プロセス
- アップグレード プロセス
- ディレクトリまたはファイルのコンテンツ

コンポーネント情報を確認するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **Software Upgrade > Check Component Info** を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの情報タイプを選択します。

- Software Packages
- Install
- Post Install
- Upgrade

または、取得するファイルの名前を入力します。

ステップ 3 (オプション) ファイルから取得する行数を入力します。0 と入力すると、ファイル全体が取得されます。

ステップ 4 **Retrieve** をクリックします。

ステップ 5 情報ウィンドウが開きます。情報ウィンドウで、次の機能を実行します。

- アップデートされた情報を取得するには、**Refresh** をクリックします。
 - 情報ウィンドウを閉じるには、**Cancel** をクリックします。
 - IPT Platform Administration のページを引き続き使用するには、ウィンドウの左側にあるメニューから選択します。
-

システムの電源オフまたはリブート

ローカル ソースまたはリモート ソースからソフトウェアをアップグレードすると、ソフトウェア アップグレードがサーバのスタンバイ パーティションにダウンロードされます。Switch Versions and Reboot ウィンドウでは、アクティブ パーティション（以前のバージョンのソフトウェアを実行しているパーティション）からスタンバイ パーティション（アップグレードされたソフトウェアがあるパーティション）に切り替えることができます。

また、現在のソフトウェア バージョンを実行しているシステムをリブートしたり、電源を完全にオフにすることもできます。

Switch Versions and Reboot

ローカル ソースまたはリモート ソースからソフトウェアをアップグレードすると、ソフトウェア アップグレードがサーバのスタンバイ パーティションにダウンロードされます。このウィンドウでは、アクティブ パーティション（以前のバージョンのソフトウェアを実行しているパーティション）からスタンバイ パーティション（アップグレードされたソフトウェアがあるパーティション）に切り替えることができます。方法は次のとおりです。



注意

バージョンを切り替えてリブートする前に、完全なデータ バックアップを必ず実行してください。

- ソフトウェア バージョンを切り替えてシステムをリブートするには、**Proceed** をクリックします。
- ソフトウェア バージョンを切り替えてシステムをリブートする作業をキャンセルするには、**Cancel** をクリックします。

Reboot Current Version

Reboot Current Version ウィンドウでは、システムをリブートし、同じバージョンのソフトウェアを引き続き実行することができます。



注意

システムをリブートする前に、データバックアップを必ず実行してください。

- システムをリブートするには、**Proceed** をクリックします。
- システムのリブートをキャンセルするには、**Cancel** をクリックします。

Poweroff System

Poweroff System ウィンドウでは、次の方法でシステムを正常にシャットダウンできます。



注意

シャットダウン プロセスを開始する前に、システム データを必ずバックアップしてください。

- システムのシャットダウンを開始するには、**Confirm** をクリックします。
- システムのシャットダウンをキャンセルするには、**Cancel** をクリックします。

Cisco IPT Platform Administration コマンドライン インターフェイス

この項では、基本的なプラットフォーム管理機能を実行するコマンドについて説明します。この項で説明されているすべてのコマンドは、Cisco IPT Platform Administration Web アプリケーションでも使用できます。P.6-2 の「[Cisco IPT Platform Administration Web ページの使用方法](#)」を参照してください。



(注)

Command-Line Interface (CLI; コマンドラインインターフェイス) は、Cisco IPT Platform Administration Web アプリケーションが使用できない場合に限り使用することをお勧めします。

次の CLI コマンドを使用できます。

- file list
- file view
- ping
- restart
- service list
- service start
- service stop
- set hostname
- set ip (DHCP)
- set ip (IP)
- set security
- set task alarm
- set task trace
- show status
- show hw
- show security
- show files activelog

- show files activlog cli.log
- show files inactive log
- show files install
- show files install ks.cfg
- show files install partAlloc
- show files install install.log
- show files install install.post
- tracert

CLI セッションの開始

Cisco IPT Platform Administration CLI には、次の方法でローカルまたはリモートのロケーションからアクセスできます。

- Cisco MobilityManager のインストール中に使用したモニタとキーボードを使用するか、シリアルポートに接続されているターミナルサーバを使用して、Cisco IPT Platform Administration CLI に直接アクセスします。
- SSH を使用して、Cisco IPT Platform Administration CLI とのセキュア接続をクライアントワークステーションから確立します。

始める前に

Cisco IPT Platform が、次の情報が設定された状態でインストールされていることを確認します。

- プライマリの IP アドレスとホスト名
- 管理者 ID
- パスワード

これらの情報は、Cisco IPT Platform Administration CLI にログインするために必要になります。

CLI セッションを開始するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのオプションを使用して、CLI に接続します。

- リモートシステムから、SSH を使用して Cisco IPT Platform Administration CLI にセキュアに接続します。SSH クライアントで、次のように入力します。

ssh *adminname*@*hostname*

adminname には管理者 ID を入力し、*hostname* にはインストール中に定義したホスト名を入力します。

たとえば、**ssh admin@ipt-1** と入力します。

- 直接接続から、次のプロンプトが自動的に表示されます。

```
ipt-1 login:
```

ipt-1 は、システムのホスト名を表しています。

インストール中に定義した管理者 ID を入力します。

ステップ 2 パスワードを入力します。

CLI プロンプトが表示されます。プロンプトには、次の例のように管理者 ID が含まれます。

```
admin:
```

CLI コマンドを入力できます。

関連項目

[CLI の基本](#)

[CLI セッションの終了](#)

CLI の基本

この項では、コマンドライン インターフェイスを使用するための基本的なヒントを示します。

コマンドの補完

コマンドを補完するには、**Tab** キーを使用します。

- コマンドの開始部分を入力し、**Tab** キーを押すと、コマンドが補完されます。たとえば、**se** と入力し、**Tab** キーを押すと、**set** が補完されます。
- メニュー コマンドを入力し、**Tab** キーを押すと、このメニューで使用できるすべてのコマンドまたはメニュー コマンドが表示されます。たとえば、**set** を入力し、**Tab** キーを押すと、すべての **set** メニュー コマンドが表示されます。アスタリスク (*) は、メニューであることを示します。
- コマンドに達してから **Tab** キーを押し続けると、現在のコマンドラインが繰り返されます。さらなる拡張はありません。

コマンドのヘルプの取得

任意のコマンドのヘルプを、次の2種類の形式で取得できます。

- 詳細なヘルプ。これには、コマンドの定義と使用例が含まれています。
- 簡易クエリー ヘルプ。これには、コマンド構文だけが含まれています。

CLI プロンプトから詳細なヘルプを取得するには、次のように入力します。

help <command>

<command> には、コマンド名またはメニュー コマンドとパラメータを入力します。例 6-1 を参照してください。

CLI プロンプトからコマンド構文情報を取得するには、次のように入力します。

<command> ?

<command> には、コマンド名またはメニュー コマンドとパラメータを入力します。例 6-2 を参照してください。



(注) メニュー コマンドの後に疑問符 (?) を入力すると、Tab キーを押した場合と同じ結果が得られます。コマンド補完候補がリストされます。

次の例は、ヘルプ コマンドの一般的な使用方法を示しています。

例 6-1 詳細なヘルプの例

```
admin: help ping
```

This will send one or more ping packets to a remote destination

Example:

```
admin:ping www.cisco.com 5
```

```
PING www.cisco.com (198.133.219.25) from 172.22.119.166 : 56(84) bytes of data.
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=1 ttl=246 time=0.837 ms
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=2 ttl=246 time=0.962 ms
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=3 ttl=246 time=1.04 ms
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=4 ttl=246 time=0.635 ms
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=5 ttl=246 time=0.666 ms
```

例 6-2 クエリーの例

```
ping?
```

```
Syntax:
```

```
ping dest [count]
```

```
dest      mandatory      dotted IP or host name
```

```
count     optional         count value (default is 4)
```

CLI セッションの終了

CLI セッションを終了するには、CLI プロンプトで **quit** を入力します。システムは、次のいずれかの方法で応答します。

- リモートでログインしている場合は、ログオフすると、SSH セッションが切断されます。
- ローカルでログインしている場合は、ログオフすると、次の例のようにログインプロンプトに戻ります。

```
login:
```

Cisco IPT Platform CLI コマンド リスト

表 6-7 に、Cisco IPT Platform Administration CLI で使用できるコマンドの説明を示します。



注意

一部のコマンドは、使用することでコール処理が遅くなる場合があります。詳細については、表 6-7 の注釈を参照してください。

表 6-7 CLI コマンドの説明

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
<code>ping dest [count]</code>	指定した宛先に対して <code>ping</code> コマンドを実行します。 <i>dest</i> (必須) : 宛先、ipV4 またはドメイン名。 <i>count</i> (オプション) : 実行する PING の数。	Utilities > Ping

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
file list	<p>ディレクトリ内のログ ファイルをリストします。</p> <p>ソート修飾子 :</p> <p>デフォルト dir (名前) とファイル (名前)</p> <p>d 日付 (要求した場合は、サイズが無効になります)</p> <p>s サイズ</p> <p>r すべてのソートの反転</p> <p>表示修飾子 :</p> <p>デフォルトファイルのみ、2 列</p> <p>l 日付とサイズが含まれた長いリスト</p> <p>file-spec : ワイルドカード指定</p> <p>ファイル名では、上記の修飾子を使用した通常のリストが生成されます。</p> <p>ディレクトリでは、ディレクトリのフルパスを表示するリストが生成されます。</p> <p>構文 :</p> <p>file list activelog [-options] [file-spec]</p> <p> inactivelog [-options] [file-spec]</p> <p> install [-options] [file-spec]</p> <p>options オプション -tsrl</p> <p>file-spec オプション 表示するファイル</p>	-

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
file view	<p>ログ ファイルを表示します。</p> <p>ソート修飾子 :</p> <p>デフォルト dir (名前) とファイル (名前)</p> <p>d 日付 (要求した場合は、サイズが無効になります)</p> <p>s サイズ</p> <p>r すべてのソートの反転</p> <p>表示修飾子 :</p> <p>デフォルトファイルのみ、2 列</p> <p>l 日付とサイズが含まれた長いリスト</p> <p>file-spec : ワイルドカード指定</p> <p>ファイル名では、上記の修飾子を使用した通常のリストが生成されます。</p> <p>ディレクトリでは、ディレクトリのフルパスを表示するリストが生成されます。</p> <p>構文 :</p> <p>file view activelog [file-spec]</p> <p> inactivelog [file-spec]</p> <p> install [file-spec]</p> <p>file-spec オプション 表示するファイル</p> <p></p> <p>(注) file-spec のワイルドカード指定は可能ですが、単一のファイルに解決される必要があります。</p>	

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
set ip	<p>インストール時に設定されたネットワーク設定の次の要素を設定または変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP のオンまたはオフ • 新しい IP アドレスおよび IP マスクの設定 • 新しいゲートウェイアドレスの設定 <p>構文：</p> <p>set dhcp iface op</p> <p>iface (必須) : インターフェイス名 {eth0 eth1}</p> <p>op (必須) : 演算 {yes no}</p> <p>例 :</p> <pre>set dhcp eth0 on</pre> <p>set ip iface addr mask</p> <p>iface (必須) : インターフェイス名 {eth0 eth1}</p> <p>addr (必須) : 割り当てる IP アドレス</p> <p>mask (必須) : 割り当てる IP マスク</p> <p>例 :</p> <pre>set ip eth0 10.10.140.8 255.255.255.0</pre> <p>set gw addr</p> <p>addr (必須) : 割り当てる IP アドレス</p> <p>例 :</p> <pre>set gw 10.107.140.1</pre> <p> (注) set ip コマンドでは、システムが強制的にリブートされるので、注意して使用してください。このコマンドを実行する前に、確認を求める警告が表示されます。</p>	Settings > IP Settings

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
set password admin	<p>インストール中に設定された管理者アカウント (デフォルトで唯一のアカウント) のパスワードを変更します。</p> <p>新しいパスワードの入力と確認を求められます。</p>	-
set security orgunit orgname locality state country	<p>このマシン上の Tomcat のセキュリティ証明書とキーを作成します。Cisco IPT プラットフォームへのブラウザ アクセスで http の代わりにセキュアな https プロトコルが使用されるように設定してある場合は、このセキュリティ キーが使用されます。</p> <p> (注) このコマンドは、https をサポートしていない Cisco IPT Platform には適用されません。</p> <p>元のキーに障害がある場合、または証明書が有効期限切れになった場合は、set security コマンドを使用します。新しいキーの作成後、そのキーを表示するには、show security を使用します。</p> <p>パラメータ間にはスペースを入力します。</p> <p>orgunit (必須) : 組織ユニット orgname (必須) : 組織名 locality (必須) : 場所 state (必須) : 州 country (必須) : 国 (英字 2 文字)</p> <p>例 :</p> <pre>admin:set security mydept mycorp SanJose CA US Successful in generating self signed certificate for unitname tomcat Successfully generated self signed certificate for tomcat</pre>	-

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
service list service start [service name] service stop [service name]	サービスをリスト、開始、または停止します。	-
show files install [filename]	インストール ログ ファイルのリストを表示します。 <i>filename</i> (任意) : 表示するファイルの名前	Cisco IPT Platform Administration で、Collect Diagnostics コマンドを使用して診断ファイルを収集します。
show hw	ハードウェア プラットフォームとシリアル番号を表示します。	Show Status > Hardware
show security	Tomcat セキュリティ キーおよび証明書情報を表示します。 Cisco IPT プラットフォームへのブラウザ アクセスで http の代わりにセキュアな https プロトコルが使用されるように設定してある場合は、このセキュリティ キーが使用されます。	-

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
show status	<p>次のプロパティの動的ステータスを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Host name • Date • Time Zone • Primary DNS • Secondary DNS • Domain • Gateway • イーサネット 0 およびイーサネット 1 : <ul style="list-style-type: none"> – DHCP (yes または no) – インターフェイスのステータス – IP Address – IP Mask • リソース : <ul style="list-style-type: none"> – Memory : Total、Free、Used – CPU (%) : Idle、System、User – Disk Usage : パーティション / から得られる Disk/active、パーティション /partB から得られる Disk/inactive、パーティション /common から得られる Disk/logging 	Show Status > Platform Status
show trace	トレース情報を表示します。	
show version active	アクティブまたは非アクティブな Cisco IPT Platform Administration ソフトウェア バージョンを表示します。	-
show version inactive		

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
system [parameter]	<p>パラメータでの指定に応じて、再起動、バージョンの切り替え、サーバの再起動またはシャットダウンを実行します。</p> <p>system restart : 現在のバージョンを再起動します。</p> <p>system switch-ver : バージョンを切り替えて再起動します。</p> <p>system poweroff : グレースフルにシャットダウンします。</p> <p> (注) このコマンドを実行する前に、確認を求める警告が表示されます。</p>	<p>System Poweroff or Reboot > Reboot Current Version</p> <p>System Poweroff or Reboot > Switch Versions and Reboot</p> <p>System Poweroff or Reboot > Poweroff System</p>
traceroute dest [ethX]	<p>traceroute コマンドを実行し、宛先までのパケットの経路をトレースします。ホスト間のルーティング問題をデバッグするために、次のように使用します。</p> <p>dest (必須) : 宛先、ipV4 またはドメイン名</p> <p>ethX (オプション) : 発信元イーサネットインターフェイス、eth0 または eth1</p>	-